

日米議員チャンネル強化プロジェクト(日米議員交流)

2014年2月18日

笹川平和財団

I. 当財団の問題意識

日米関係は、とりわけ安全保障面において、アジアの安定と繁栄の基軸であり、両国の関係の一層の緊密化は両国のみならず、広くアジア太平洋地域全般に利益が及ぶ性格のものである。

一方で、普天間問題、集団的自衛権の問題等、日米両国間で解決を図るべき課題は山積しており、解決困難な場合は、アジアの不安定化要因たりうる。

近年、とりわけ日本の経済停滞が長期化する中、日本のプレゼンスが低下し、日米間で、各レベル(立法、行政、経済界)での交流の緊密度が低下している可能性がある。このような状況の下、日米の次世代リーダー同志が、緊密な交流を行い、人と人の関係に根差した太いパイプを構築するための取り組みが今求められているとの認識である。

また、日米間で課題が生じて初めて対応するというだけでなく、今が、中長期的な議論を広汎かつ建設的に実施できるタイミングでもあると捉え、林芳正大臣、長島昭久議員を共同座長とした超党派の議員団による米国への訪問・各種交流等を本年より開始し、本財団としては適切に支援を行ってまいりたい。

II. プロジェクトについて

1. 参加メンバー

(1) 自民党

林 芳正 農林水産大臣(共同団長)

宮沢 洋一 参議院議員

小泉 進次郎 衆議院議員

齋藤 健 衆議院議員

(2) 民主党

長島 昭久 衆議院議員(共同団長)

注) 今後、2～3名の同党国会議員が参加予定。

2. 活動内容

(1) メンバーが訪米し、米国国会議員、議会関係者との意見交換をおこなう。

・年1～2回、米国を訪問する。

・米国国会議員、議会関係者との面会、視察を通じ、意見交換をすることにより、対日理解を促し、日米の議員および関係者同志の交流基盤を強化する。

- (2) 訪米時に、講演会、セミナーを開催し、情報発信を行う。
・講演会、セミナー等を開催し、日米協力の重要性について情報収集、および対米発信を行うことにより、さらなる連携の在り方を模索する機会とする。
- (3) 米国での受け入れ態勢
・米国議会日本研究グループ(CSGJ)及び笹川平和財団米国のサポートを受ける。

※参考

米国議会日本研究グループ(Congressional Study Group on Japan: CSGJ)

米国元連邦議員協会(FMC)が実施する交流活動の一つ。同グループは60人以上の米国議会議員から構成されており、各種の交流活動が実施されてきている。従来、安全保障、軍事問題が中心テーマであったが、エネルギー、貿易、イノベーション等も関心分野となってきた。

III. 主催事務局

(1) 事務局

笹川平和財団

(2) 問い合わせ先

笹川平和財団 事業部長 林 祥一郎

事業部 広報担当 中原

電話/FAX: 03-6229-5462/FAX -5473、メール: spfpr@spf.or.jp

以上